

銀漢亭日録



伊藤伊那男

10月15日(月)▼八時半、埋橋一樹君の車で、辰野横川の蛇石へ。水成岩の中へ火成岩が突入した天然記念物。周囲の樹相も良い。橡の実を拾う。辰野駅で降りてもらい、十一時、大住、北澤一伯君の三人で鯉料理の「小坂鯉店」へ。鯉の味噌汁、洗い、鯉の白焼き、かば焼、うさく。酒は「夜明け前」。帰路の八ヶ岳は雪。十八時帰宅し、昏々と眠る。今日は店休みとする。

16日(火)▼早起きして十二月号のエッセイ。盤水俳句、自句自解など書く。店「パティオ」の環順子さんと仕事仲間四人。客、途切れたので二十一時早仕舞。

17日(水)▼午前中、岩野蘭科。定期検査終了。店、「三水会」八人。皆、この日(月)に伊那で会ったメンバー。「汀」の土方公編集長、初めて来店して下さる。すると金井硯児さん見えて、昔からの知り合いと！「雲の峰」の酒井多加子さん、角野京子さん等、明日の「春耕」の吟行会に上京と寄つて下さる。その他、久々賑わう。

19日(金)▼発行所「薦句会」あと八人店へ。伊那北先輩の北野(俳人北野五律の裔、伊藤(秋麗)所屬さん。その卒年に早稲田に十七人入学。その同期会のこと。当時、伊那北高校が火災にあい、青空教室。皆、奮奮し、東大に十人とか東北大に二十人とか合格した稔りの年。高部務さん芸能界スキャンダルの本出版と。その見本誌を持って来て下さる。店の壁の写真展今日まで。倉田有希さん回収に。

20日(土)▼五時起床。七時半、丸ノ内発のバス二台で群馬県前橋方面。豚の丸焼きの会。飯西敦子さん幹事。豚丸九頭を早朝から焼いている。別に手打ちうどんあり、麺とい掛汁とい何ともうまい。天麩羅もあり、青紫蘇の天麩羅を汁に浮かべて油が溶け出したのが何とも！豚一頭は壮観！塩でいただく。酒は「玉の光」を持参。帰路は昏々と眠る。「環順子」さん新結社誌「パティオ」冬号の巻頭ウッセイ書く。快晴。

「銀漢賞」選句。夕食、刺身、昨日の豚丸焼きの土産など。

22日(月)▼「Oh!」月見句会「昨日が十三夜」、月の句三句持参。三十一人参加。十結社位の方々。

23日(火)▼「萩句会」選句。「問句会」八人(ホトトギス系)、そのあと、「ひ

スタート。二次会では各自思い出の一曲の一番を歌うという趣向を取り仕切る。三十一時眠る。

4日(日)▼六時過起床。風呂でゆつくり。八時半、バススタート。まずは冷泉家の四日間ほどの一般公開へ。初めて拝見する。晴明神社、一条戻橋、昼食は「田辺宗」の「漬物寿司」。高台寺駐車場にバスが入る。高台寺久々。八坂の塔に登る。境内に木曾義仲の首塚あり、参拝。十五時半、皆と別れ、大谷相廟の妻の実家牧野家の墓、妻分骨の相廟に参る。新京極「スタンド」でビール。五時「しん」に入り、ぐじ、刺身、万願寺など。昨夜の酒がまだ残っている。京都駅で蕎麦と酒少々。新幹線に乗ったとたん前後不覚で眠る。

5日(月)▼中川さんマッサージに来たのを掴まえて散髪を頼む。道具を持っていなかったが家の鉄で。店、「銀化」グループ四人勉強会。対馬康子さん。「かさ、ぎ俳句勉強会」あと十一人。水内慶太、麻里伊、中村十郎さんなど。

6日(火)▼「鏡」主宰寺澤芳雄さん、元俳句朝日編集長・大上さんなど五人の俳句の会。ほか超閑散。帰宅して娘夫婦と小酌。今日、桃子誕生日。

7日(水)▼「俳句aあるふあ」連載の「一句一菜」三ヶ月分執筆(二月、鰯の酒粕煮、二月、鶏の柚子胡椒焼、三月、蜆島賊さつと煮)。NHK俳句、一月号クラブ六頁の伊那谷吟行記の校正。十二月号のエッセイ。自句自解とシヤカリキに書く。店、「宙句会」あと九人。「ささらぎ句会」あと七人。金融会社時代の木村博さん。彼はその後、上場会社役員に出世。

8日(木)▼「極句会」あと十一人。

9日(金)▼「白熱句会」。水内慶太、檜山哲彦、佐怒賀正美、木暮陶句郎、井上弘美さん。ほとんどが明日の「一茶山頭火俳句大会」の選者にて、今日は句会中から料理を出し、二十二時半お開きとする。

10日(土)▼十時二十分、日暮里本行寺。第十回「一茶山頭火俳句大会」の選者。当日句四百超。宮坂静生先生の講演。昼は「志乃多寿司」の折

り詰め。句会は杉阪大和氏圧勝。終了後、駅前の「又一順」にて慰労会。冬晴れの良い一日であった。

11日(日)▼終日家。「銀漢」十二月号の校正終了。昼寝など休養。夜、家族と夕食楽しむ。宮澤は明日から香港と。

12日(月)▼ゆつくり寝て目覚めよし。五時から作句。今週は三回句会あり。十三時より「銀漢賞」「星雲賞」最終選考会。大和、禪次、静男、眞理

まわり句会二十一一人。

24日(水)▼「難句会」十四人と盛況。たまたま野村OBの川畑さん来店。北京時代に雑誌で私を知り訪ねてくれた方でもう十五年前。「難句会」の山本さん他と知己で喜び合う。「銀化」の伊達さん他。

25日(木)▼編集室にて「一八句会」。あと七名店へ。「銀漢句会」あと十七人。

26日(金)▼小野寺清人さん鮪を喰う会十数人。気仙沼の牡蠣も。「金星句会」あと七人。

27日(土)▼日本橋の喫茶店で作句。奈良アンテナショップで吉野宮瀧の醤油を買う。一鯉の与志喜にて「難句会」十三人。秋鯉の題にちなんで鯉の叩き、極上。鯉の煮付。椎茸の海老しんじり包み揚げ。握り。酒は古田蔵。

30日(火)▼皆川文弘さん、盤水先生の色紙染筆三枚持参。プレゼントして下さる。「ボルガ」店主であつた高島茂さんの色紙も。禪次、秋葉男、直さん打ち合わせのあと店。閑散にて私も仲間に入り話。森崎森平さん仲間と四人。

31日(水)▼野村證券OBの川畑保、秋元正さん来店。清人さん。客少なく話。二十一時、閉店。帰ればいいのに新宿で飲んでしまふ。食へてしまふ……ああ、また。

11月1日(木)▼「慧星集」十二月号選評書き執筆終了。一月号用のエッセイだいたい書く。店、「十六夜句会」あと九人。伊那北高校同期の竹沢薫君から紹介されたという三菱日立ツール(株)の土倉役員四名。

2日(金)▼「大倉句会」七周年記念の会。ゲスト入れて約四十人集合。活気あり。清人さんが気仙沼の牡蠣沢山持ち込む。その他、食品、酒と皆さん持参して下さる。

3日(土)▼品川発八時の新幹線。崎陽軒の焼売弁当食べると寝てしまふ。名古屋で目が覚める。伊吹山の山頂道に雪の筋を見る。十時過ぎ、京都。東寺まで歩く。快晴。偶然、国宝大師堂の改修工事の一般公開中でヘルメットを借りて屋根の檜皮葺の作業などを見学。北総門を出ると左手に六孫王神社あり、清和源氏の名乗った源經基を祀る。今日は雲の峰「総会」で源義仲の話をするのでその偶然に驚き参拝。あと梅小路公園、島原を抜けて五条へ出てタクシーで「ザパレスサイドホテル」へ。「源氏三代と木曾義仲と芭蕉」の講演一時間。宴会までの間、京都御苑を一時間ほど散策。釣瓶落とし。宴会は住田眞里子さんのバイオリン演奏で

子揃う。終わって静男を囲み大和、眞理子さん飲み会。禪次さん十二月最終校正作業と編集会議。店は閑散。

13日(火)▼久重凛子さんの「玉川学園句会」の方々九名。花園神社の「二の酉」を見たあと「銀漢亭」へ来て下さる。何と見事な熊手をお土産に！句会あと食事会。そのあと「火の会」八人。

14日(水)▼「梶の葉句会」選句。店、超々閑散。明日、明後日の仕込みをして二十時半閉める。新宿で少し飲んでしまふ。

15日(木)▼「銀漢句会」あと十九人。本日、ボージョレスボー解禁日。慶大OBの機関誌「丘の風」(禪次さん編集長)到着。行方克己先生が拙句集「然々」との書評書いて下さった。有難く有難く拝読。出羽手向三光院柏谷様より庄内柿沢山届く。

16日(金)▼発行所「薦句会」選句あと店へ七人。入れ替わりに藤森莊吉さんの「問句会」八人(ホトトギス系。北軽句会の柴山つぐ子さん、昔の会社の同窓会で上京したと寄つて下さる。「月の匣」主宰水内慶太さん「すし屋の弥助」の鯖、穴子の棒鮓土産に下さり、皆でいただく。慶太さん、小野寺清人さんがウーウクリコで柴山さんに乾杯！

17日(土)▼十時、運営委員会。百号記念、十周年事業など打ち合わせ。十三時、「銀漢本部句会」。麴町区民会館。四十七人といつもより少人数。あと近くの中華店にて親睦会。渋谷「鳥竹」で小酌して帰宅。

18日(日)▼終日家。休養日。「銀漢賞」「星雲賞」の選評書き、秋葉男さんに送る。今年は計七十九編の応募あり。

19日(月)▼店「演劇人句会」六人。皆川文弘さん。昨日喪中の知らせを戴いていたが母堂、文弘さんのいわきの母上、皆川美恵子様(「春耕」同人)が五月に逝去されていたことを知らずにいて不覚。佐怒賀直美さん(「橘主宰」)。あととうさき、麦さんと餃子屋。

20日(火)▼店、「谷根千句会」十人の会。清人さんが気仙沼から、ばい貝、牡蠣、鯛、帆立、蛸など取り寄せ大パーティー。

21日(水)▼高校同期「三水会」今日は四人と少なめ。客も少ないので一緒に飲む。そう、伊那北の同期、小池百人君と子息来店。またまた飲む。景気悪いのか近隣の店、安売り競争。二軒隣は、鰯祭も含め酒類一切、一時間飲み放題千円。イタリアンはワイン三十分飲み放題三百八十円。加えて「天麩羅いもや」の後に居酒屋開店準備中。ますますひどくなりそう。